

第5学年 国語科学習指導案

平成26年6月27日（金）第5校時

1 単元名 「表現を楽しもう」 7

教材名 「注文の多い料理店」 宮沢賢治～東京書籍5年下～

2 単元の目標

- 作品に描かれている登場人物の心情を読み取ることができる。
- 「注文の多い料理店」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 物語の設定を理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○作品に描かれている登場人物の心情を読み取ろうとしている。 ○登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめようとしている。	○相互の会話や行動の奥にある機微をとらえている。 ○人物や出来事について、作者の考えを読み取り、自分の考えをもっている。 ○交流することで、考えを広げたり深めたりしている。	○比喩的な表現やなどの効果的な使い方を理解している。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

「注文の多い料理店」は、現実世界から幻想的な世界に入り、最後はまた現実世界に戻るという作品である。主人公の二人の紳士は、山猫の奇妙な注文を見るたびに、自分達に都合の良いように考えて、喜んで奥へ奥へと進んでいく。そして最後には、食べ物にありつくつもりだったのが、反対に自分達が食べられそうになるという逆説的なおもしろさがある。児童は、この後どうなるかと想像しながら、先へと読み進む楽しさを感じると考えられる。また、終始丁寧な山猫側の言葉遣いとぞんざいな口のきき方の紳士側との対比、ザワザワ、がたがたなどの擬態語や擬声語、様々な場面に散りばめられた色の表現にも注目させるとともに、作品から感じとれる宮沢賢治の考えにもふれさせたい。

(3) 教材文について

「注文の多い料理店」は3つの場面からなる物語である。

- 1 二人の若い紳士が山に狩りに入る（現実の場面）
- 2 山の中の料理店に入り、何かを食べさせてもらうはずが、逆に自分達が山猫に食べられそうになる（幻想の場面）
- 3 連れてきた犬と猟師に助けられ、東京に帰る（現実の場面）

物語はやや長いですが内容はわかりやすく、主人公の二人の紳士の言動と山奥の料理店の戸に書かれた不思議な文章に、先が気になり、読み進める姿が予想される。色や言葉遣いを取り上げることでさらに想像を深めるとともに、宮沢賢治の考え方にもふれることができる作品である。

5 主題に迫るために

(1) 4つの思考の型を取り入れた学習活動

【比較】

- ・戸に書かれた様々な文章を見た時に、二人の紳士が思ったことの違いを比較する。(そのまま受け止めた時と少し怪しく思った時の違い)

【選択】

- ・二人の紳士の人物像が想像される場所を選択してサイドラインを引く。

【類推】

- ・二人の紳士の会話や叙述から、人物像を類推する。
- ・注文の言葉を見た時の二人の紳士の受け取り方を類推する。

【関係付け】

- ・2つの考え方ができる文を探し、どのような考え方ができるか違いを考える

(2) 物語を読む10の観点

(3) ワークシートの活用

サイドラインを引き、自分の考えを整理するためにワークシートを用いることにする。

(4) 話し合いの場の設定

友達との交流により、自分の考えに自信をもったり、友達の意見に共感したりできる場をつくることで、学習を深められるようにする。

6 学習指導計画（全7時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・題名と冒頭の一文から物語を想像する。 ・初発の感想を書く。 ・感想の交流をする。 	【関】 自分なりの初発の感想をもつことができる。 (発言・ワークシート)
	2	物語の設定、人物、事件を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・10の観点をを用いて物語をまとめる。 	【読】 物語の設定、人物、事件を読み取れている。 (発言・ワークシート)
2	3	二人の紳士の装いや言動を表す言葉から、人物像を考える。	第一課題「登場人物に着目しよう。」 ★二人の紳士の装いや、言動を表す言葉にサイドラインを引く。 【選択】 第二課題「登場人物像を考えよう。」 ★文中表現や経験から登場人物像をとらえる。 【類推・関係付け】 【言葉の力】 <ul style="list-style-type: none"> ・情景描写、行動描写 	【読】 叙述に即して登場人物像を考えようとしている。 (発言・ワークシート)

4 (本時)	山猫の視点から物語を読み、山猫のねらいや、表現のおもしろさをとらえる。	<p>第一課題「注文の言葉から、山猫のねらいをとらえよう。」</p> <p>★紳士に出した注文を、文中の表現相互、内容相互の関係からとらえ、注文内容の変化に気づく。</p> <p>【類推・比較・関係付け】</p> <p>第二課題「違う意味がとれる表現を探し、そのおもしろさを考えよう。」</p> <p>★注文の中からニュアンスにより違う意味がとれる表現を探し、そのおもしろさの理由を考える。</p> <p>【類推】</p> <p>【言葉の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの言葉で複数の意味が読み取れる言葉 	<p>【関】自分の経験や体験を重ねながら、心情を読み取ろうとしている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
5	情景描写に着目して物語を読み、表現のおもしろさをとらえる。	<p>第一課題「情景描写に着目しよう。」</p> <p>★ザワザワ、がたがたなどの擬声語、擬態語、様々な場面にちりばめられた色彩表現にサイドラインを引く。【選択】</p> <p>第二課題「物語における効果を考えよう。」</p> <p>★擬声語、擬態語、様々な場面にちりばめられた色彩表現が物語にどのような効果をもたらすかを考える。【類推】</p> <p>【言葉の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 擬声語、擬態語、色彩語 	<p>【読】色についての描写や繰り返し、比喻などの表現から考えられることをまとめようとしている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
3	6・7 作品を通して作者が伝えたかったことを考える。 書いた文章を読み合い、友だちと交流をする。	<p>物語に込められている作者の意図を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ最後に二人の紳士のことが書かれているのかを考える。 ・物語を通して、作者が伝えたかったことを考え、ワークシートに書く。 ・友だちと感想交流をする。 	<p>【関】作品を通して作者が伝えたかったことを考えている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>【関】自分の考えや、意見を交流している。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>

7. 本時の指導 (4/7 時間目)

(1) 本時の目標

・「注文の多い料理店」「食べられます」「おなかにお入りください」などの表記に着目して、山猫のねらいや表現のおもしろさをとらえ、読み深めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1. 前時の学習を振り返る。		
展開	2. 学習課題を知る。 注文の言葉から、山猫のねらいをとらえよう (第一課題)		
	3. 13の注文から山猫の意図をとらえる。 (1) 紳士に出された注文の内容を考え、山猫のねらいが変化していることに気づく。 【類推・比較・関係付け】 ①～④ お店のアピールや案内 ⑤～⑧ 材料の準備 ⑨～⑫ 味付け ⑬ 案内 (2) 山猫のねらいは何かを考える。【類推】 違う意味がとれる表現を探し、そのおもしろさを考えよう (第二課題)	○紳士をもてなす内容から、紳士を食べるための内容に変化していることに気付かせる。 ○注文を通して、山猫のねらいについて考えさせる。	【読】 山猫の意図を読み取ることができたか。 (発言・ワークシート)
	4. 主語を変えることにより、違う受け取り方ができる表現を探し、そのおもしろさを考える。 (1) 注文の中から、違う受け取り方ができる文を選び、「紳士の感じたこと」、「山猫のねらい」をそれぞれの視点で考える。 【選択・類推・関係付け】 ・「当軒は注文の多い料理店ですから…」 山猫側：紳士を食べるための注文が多い。 紳士側：繁盛していてお客からの注文が多い。 (2) 同様の言語表現探し、紳士側、山猫側でのとらえ方を考える。 (3) 小グループで話し合う。	○紳士の料理を食べたいという思いを押さえる。 ○紳士側、山猫側で注文に対するとらえ方が違うことを理解させる。	【言】 主語を変えことにより、違う受け取り方ができることを理解できたか。 (発言・ワークシート)
まとめ	6. 本時の振り返りをする。	○表現のおもしろさについて学んだことを書く。	

8. 板書計画

注文の多い料理店④-1 名前)

注文の言葉から、**山猫のねらい**をとらえよう

注	文
①【「どなたかどうがお入りください。決して「えんりよは ありません。】 ②【「ここ」、太ったおかたやわかいおかたは、大かんげい いたします。】 ③【当軒は注文の多い料理店ですから、どうかそこは承 知ください。】 ④【注文はすいぶん多いでしょうが、どうかいちいちこら えてください。】 ⑤【お客様がた、ここをかみをきちんとして、それから き物のたぶを直して下さい。】 ⑥【鉄ぼうごたまを「こ」へ置いてください。】 ⑦【「どうかほうじを外さうしを「こ」をおとりください。】 ⑧【ネクタイピン、カフスボタン、眼鏡、さいふ、その他 金物類、「こ」をたがったものは、みんな「こ」に置いて ください。】 ⑨【「こ」の中のクリームを顔や手足にすっかりぬって ください。】 ⑩【クリームをよくぬりましたが、耳にもよくぬりました か。】 ⑪【料理はもうすぐできます。十五分とお待たせはいたし ません。すぐ食べられます。早くあなたの頭にびんの 「こ」水をよくぬらさうかけてください。】 ⑫【この部屋はたいてい「こ」をたがったお客さんでいっぱい です。お客さん、おなかにははいるの「こ」をたがって ください。】	<p style="text-align: center;">山猫のねらい</p> <p>人をお店の 中にいれたい。 お客さんを おまねきする。 食べやすくなる。 しゃまなものを たがしたい。</p> <p style="text-align: center;">二人の紳士を食べたい。</p>

早く入ってきてほしい。
食べたい。

注文の多い料理店④-2 名前)

山猫のねらい	紳士が思ったこと
注文の多い料理店ですから。 小猫が二人の紳士に 必ず注文が多い。 すぐ食べられます。	他のお客さんも 注文が多い。 料理が すぐ食べられる。
おなかにお入りください。 小猫のお腹に 入って下さい。	部屋の中 にお入り下さい。

今日の学習感想